

第四回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：萌黄

【日時】

10月6日(水) 13:30～16:30

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿とそれを実現するための方向を話し合おう

【場所】

荒川区役所 305 会議室

ステップ3：重点問題の解決策を話し合おう

ステップ4：今日の話し合いの結果の確認

ステップ1：はじめに

コンサルタントにより、前回までの話し合いの内容確認と、今回の話し合いの主旨の説明がなされた。

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿とそれを実現するための方向を話し合おう

前回話し合った「こうなって欲しいまちの姿(夢)」の内容に沿って、話し合いを更に深めることにした。

【日本の玄関になり、通り過ぎられないまち】

- ・ 日暮里駅前の再開発により、どうしたら足を運んでもらえるかの対策が必要である。観光的な要素も考えなければならない。
- ・ 日暮里と南千住の再開発について、周辺住民に詳しい情報が入らないのは問題である。
- ・ 日暮里周辺に、外国人向けのこぎれいで下町らしさの残るアットホームなホテルを建てて、日本の玄関口となれば、人の流れが変わる。そうすることによって、観光面でも、荒川区に足を向けることになるのではないか。
- ・ どんな小さなものでも発掘して、観光振興につながるものを作り出す事も良いのではないか。
- ・ 荒川区に文化的なギャラリーを作り、通り等に名称をつけて、文化的な匂いのするイメージづくりをしてみたらどうか。
- ・ 日暮里の繊維街に、人々が足を運ぶようにしてほしい。そのためには、いろいろな設備(駐車場、駐輪場、文化的な店、レストラン等)が必要である。
- ・ 日暮里の繊維街に「ニポカジ」等の名称をつけて、若者が足を運ぶようなイメージ作りをしてみたらどうか。
- ・ 日暮里の繊維街の中には子供衣料専門店等があり、他区から沢山の人が足を運んでいる。

- ・ 南千住の「ララテラス」はとても素敵な場所である。もっと活用できないだろうか。
- ・ コミュニティバスの路線をもう少し延ばしてくれれば、足を運ぶ人は増えるのではないか。

【快適なまちづくり】

- ・ 住民活動は皆で一斉に活動しなければ、人々は参加しづらい。例えば、ヒートアイランド対策の打ち水運動等、簡単に具体的な行動に移せるようなものだったら、参加しやすいと思う。
- ・ ゴみの収集時間が午後になることは、まちの美化・衛生面にとって良くない。せめて午前中に収集してほしい。
- ・ 他区ではゴミ収集を世帯別を実施することで、ゴミの量が減った。荒川区の場合は沢山の路地があるので、難しい面がある。
- ・ スペース確保等の問題があるが、他地域で行っている収集場所のかぎ付ゴミ箱は理想である。
- ・ 荒川区の街路樹を増やしてほしい。そうすることにより、放置自転車対策にもなる。
- ・ 公共の施設などをつくる時は、樹木等の伐採をせず、緑を大切にしてほしい。
- ・ 公共の施設を新しく建てる時は、雨水利用できる設備をつけてほしい。
- ・ 区民のエコ意識が高まっているので、エコ製品を購入するときに補助金を出す制度を作ったり、区内で環境保全活動を行っている「花ちゃんネットワーク」のような活動をもっと積極的に行なってほしい。
- ・ 行政側は、施設をつくったりするときはもっと区民の声を聞いて、詳しい説明をしてほしい。

【子育てしやすいまち】

- ・ 高齢者の技術・経験を子供達に指導してもらい、ふれあうことで、お互いのコミュニケーションがとれる。
- ・ ボランティア・生涯学習の講座等は増えていて、すぐ満員になるほど盛況だが、参加者は高齢者が多いので、会場はもう少し便利な場所にしてほしい。
- ・ コミュニティバスの範囲を広げてほしい。

【安全・交通面の問題を解決する】

- ・ 商店街の放置自転車問題は、商売をしている当事者は言いにくい面があるのではないかと。誰か代弁する人が必要だと思う。評議会のような会合で、議題として取り上げてみてはどうか。
- ・ 放置自転車対策のシルバーボランティアの方は大変苦労されているので、何らかの権限を与えたらどうか。
- ・ 行政側は、もっと現場の声や周辺住民の声を聞いてほしい。
- ・ 駐輪場を有料にすれば、放置自転車の台数が減るのではないかと。

ステップ3：重点問題の解決策を話し合おう

懇談会メンバーの意見の中で、防災対策が重要との意見が多かったので、防災面での話し合いを進めた。

- ・ 防災面から考えてみると、再開発に伴う新しい住民の自治会・町内会への参加や交流は必要不可欠である。
- ・ 震災時には若い力が必要なので、町会などの若手の育成も重要な課題である。
- ・ 自治会がなく、住民の移り変わりが激しいマンションの防災対策もいざという時のために、必要である。
- ・ 以前は各町会長の自宅に防災無線が入っていた。そのシステムは今も機能しているのだろうか。
- ・ 防災センターの機能をもっと充実させてほしい。
- ・ 町会に入ってもらうために、イベントなどを催したりするのはどうか。
- ・ 避難対策を立てないと、いざという時にパニックになり、大震災につながる。
- ・ 町会が十分に機能していない面もあることを認識してほしい。
- ・ 下町人情が薄れてきている。
- ・ 東京都の震災時のライフラインの確保と水害対策は万全と聞いているが、荒川区は路地が狭く、一軒一軒の間が狭いので、火災等の対策は必要である。
- ・ 近所で、朝5時に道路やゴミ置き場をきれいに掃除する女性がいるが、その人の影響で、まちの人達が掃除をするようになり、どんどん周りがきれいになってきた。そのような率先的な活動ができればよい。
- ・ ある地域の青年部のグループは、2～3年前から電柱周辺の清掃運動を実行している。
- ・ 災害があった時の最低限の生活の保障・手助けは必要である。
- ・ 震災時のデマが怖いので、いかに正しい情報を流すかが重要である。今ある区役所の防災無線は聞きとりにくいので、もう少し良いものに変えてほしい。
- ・ アメリカのニューオリンズの水害等の状況を見ると、災害に遭った場合の3日以後の二次的対応として生活の立て直しがとても大変なことがわかる。今から対策を練る必要がある。
- ・ 道路が狭く、避難場所がわからないので、わかりやすい(誰が見ても見やすい)防災マップが必要である。
- ・ 防災訓練に参加してもらうためには、町内会の力がとても重要である。現在も参加してもらうために、町会で参加者を募ったり、学校でPR活動をして、成果がでている。
- ・ 震災時の一人暮らしの高齢者・障がい者に対する地域の手助けは必要である。ある町会では、町会の班単位で対策を立てている。

【萌黄グループとして、問題解決のために実行できること】

- ・ 各地域の避難所・水の確保等、細かく調べ、誰が見てもわかりやすい防災マップをつくる。

ステップ4：その他

【その他】

11月の中間報告会の開催、発表者の選出についての説明を行った。

【次回について】

次回は、今までの意見のまとめを見てもらい、確認しながら、話し合いを進めることにした。

次回日程は、11月8日(火) 10:00より。